



News Letter

発行責任者 日本クリティカルケア看護学会学術集会
【一般社団法人 日本クリティカルケア看護学会事務所】
〒162-0833 東京都新宿区筈笥町43 新神楽坂ビル2階
TEL:03-5946-8847 FAX: 03-5229-6889 E-mail:jaccn@supportoffice.jp

- 目次
1. 第19回日本クリティカルケア看護学会学術集会へ向けて（佐々木 集会長）
 2. 委員会活動報告（編集委員会）
 3. 委員会活動報告（研究推進委員会）
 4. 編集後記



第19回 The 19th Annual Meeting of
Japan Academy of Critical Care Nursing
日本クリティカルケア看護学会学術集会

ハイブリッド
開催
一期
オンライン配信

グローバル時代における 持続可能な クリティカルケア看護の探求

The Quest for Sustainable Critical Care Nursing in the Global Age



2023年7/1▶2日

タワーホール船堀 東京都江戸川区船堀4丁目1-1

集会長

Sasaki Yoshiko

佐々木 吉子

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究所
災害・クリティカルケア看護学分野

SDGs

Sustainable Development Goals



演題発表
期間

2022年12月1日▶

2023年2月28日 因

<https://jaccn2023.com/>



学術集会HP

1. 第19回日本クリティカルケア看護学会学術集会へ向けて（佐々木 集会長）



集会長 佐々木 吉子 氏

このたび、2023年7月1・2日に、タワーホール船堀（東京都江戸川区）にて、第19回日本クリティカルケア看護学会学術集会を開催させていただくこととなりました。Withコロナ時代に相応しく、対面を基本としながらも、一日ライブやオンデマンド配信も行うハイブリッド形式で行います。

メインテーマは、「グローバル時代における持続可能なクリティカルケア看護の探求」です。少子超高齢化やグローバル化が進む現代社会において、私たちは、良質で安定したクリティカルケア看護の持続可能性を揺さぶられる多くの課題に直面しています。本学術集会では、これらに対して、それぞれが取り組んでいる活動の成果や悩み、提案などを共有し、新たなアイデアの創出や連携・共同のきっかけになることを願っております。

また、本会の活動を一般の方にも広く知っていただくため、市民公開講座（参加費無料）を開催いたします。テーマは「人生最期の時を考えてみませんか」として、人生会議（ACP：Advance Care Planning）について、講師からやさしく解説していただきます。是非、周囲の方々にもご案内いただき、ご一緒にご参加いただけましたら幸いです。

現在、事務局、企画委員会、運営委員会、演題編集委員会を中心に、参加者の皆様のニーズにお応えすべく鋭意準備を進めておりますので、是非ともご発表、ご参加をいただきますようお願い申し上げます。

参加無料
第19回日本クリティカルケア看護学会学術集会
市民公開講座
**人生最期の時を
考えてみませんか**

日時：2023年7月1日土曜日 14:10～15:30
場所：タワーホール船堀 東京都江戸川区船堀4丁目1-1

人生の最期を自分の望む形で終えることができれば、どんなに素晴らしいことでしょう。
「何かあれば救急車！」これは決して間違いではありませんが、その先に望まぬ延命治療がまわっていたとしたら。。。
皆様は人生会議（ACP：Advance Care Planning）って聞いたことがありますか？ACPはご自身だけでなく残された家族にとって心の支えになります。ACPをしておくことで残された家族が「悲しいけれど、これで良かったんがあるな。」と少しでも思うことができたら、きっと明日への一歩を踏み出せるはずです！

お申し込みはこちら
QRコード

講師紹介
Green Forest
代官山クリニック
桐谷 智希 医療員

貴会原の研修もあり、常に言葉に取り組み、実践された存在も、研修中のあの研修生時代に知り込んでいっしょにいます。

2. 委員会活動報告（研究推進委員会）

研究推進委員会は、クリティカルケア看護学の発展に寄与する研究の推進を目的に、研究費助成、優秀論文・奨励論文の選出、学術集会での交流集会の企画・運営などの活動をしております。

今回のニュースレターでは、『委員会活動を通じて、クリティカルケア看護学に関わる看護職者に伝えたいこと』というテーマをいただきました。このテーマについて、当委員会活動の1つである研究費助成にフォーカスし考えてみたいと思います。多忙な本務の中での研究活動には努力が必要です。特に、新型コロナウイルス感染症の蔓延は、研究活動にも大きな支障をきたしました。しかし、本学会では2021年度は1件、2022年度は3件の研究費を助成できました。ここにクリティカルケア看護に関わる皆様の底力を見た気がいたします。

本学会の研究費は外部資金に該当しますが、外部資金獲得には、①研究継続に必要な環境を整える、②他者からの評価を受ける数少ない機会として自らの研究を充実させる、といった意義があります。外部資金獲得には、研究動向への感度を高めたり、研究活動を共にする人的ネットワークの構築も重要です。

外部資金獲得のヒケツとして、“独創的な研究とトレンドを組み合わせよ”と言われますが、2016年ノーベル生理学・医学賞を受賞された大隅良典先生は、「科研費について思うこと」という寄稿の中で、いみじくも以下のように述べておられます。

“今はやりの研究課題に取り組みたいという指向性が強くなり、新しい未知の課題に挑戦することが難しいという雰囲気はますます助長している。結果的に、次代の研究者はますます保守的になって新しいものを生み出せなくなってしまうのではないだろうか。

（中略）役に立つことをいつも性急に求められていると思うことで、若者がほとんど就職試験での模範回答のごとく、考えもなく“役に立つ研究をしたい”という言葉をお口にします。直ぐに企業化できることが役に立つと同義語の様に扱われる風潮があるが、何が将来本当に人類の役に立つかは長い歴史によって初めて検証されるものだという認識が、研究者の側にも求められていると思う。¹⁾



研究推進委員会では、大隅良典先生のメッセージを戒めとして、将来への期待を込めた研究助成、研究推進活動にあたってまいりたいと考えております。

出典

1) https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/29_essay/data/no78_ohsumi.pdf（2022年12月27日閲覧）

3. 委員会活動報告（編集委員会）

編集委員会は、クリティカルケア領域における看護研究や看護実践、新たな知見等の公表の場として、学会誌の編集および発行を行うことを目的に活動を行っています。ここ1, 2年の活動として、次のことを行いました。

＜投稿・査読をスムーズにするために＞

よりよい論文が早く公開されるようにいくつかの活動を行いました。まず、投稿規定の大幅改定です。これまで執筆要領を合わせた形となっていたが、執筆方法をより具体的に別立てとし、それに合わせて様々な様式の見直しを進めました。2022年4月より「投稿規定」「執筆要領」「論文投稿時チェックリスト」「査読ガイドライン」が変更になりました。また、同時期に博士の学位論文に対する迅速審査を開始しました。

＜広く論文公開をすすめるために＞

これまで論文公開より1年間は学会員のみ論文へのアクセスが可能でしたが、2022年4月より、本学会誌の論文はすべてフリーアクセスとなりJ-STAGEの閲覧用のパスワード入力等不要となりました。また、17巻（2021年）よりCINAHL Ultimateでの論文検索が可能となりました。

オンラインでの投稿・査読システム開始より、毎年投稿数が増加しております。COVID-19流行により、研究の進めにくさがあると思いますが、投稿論文からは今起きていることを伝えようという気持ちが伝わってきます。喜ばしいことに2022年はかなり投稿数が増加いたしました。クリティカルケア看護の知の探究・発信・蓄積、そして活用がますます進むことを願い、委員会として活動してまいりたいと思います。

編集委員長 矢富有見子

4. 編集後記

COVID-19感染による医療ひっ迫や重症化の脅威は、初めて感染が確認されてから3年が経過した今も、医療現場に大きな影響を与え続けています。しかし、形を変化させながら感染拡大を繰り返すウィルスに対して、看護師も日々進化している事を実感しています。学術集会はハイブリット開催し、学術論文は近年投稿数が増加しています。コロナ禍でも学び続ける姿勢に敬服すると共に、進化する看護が未来の健康を創っている事も、是非知って頂きたいと思います。

中嶋武広

広報委員会 委員長：森一直 担当理事：茂呂悦子
委員：河原崎純、武内龍伸、池辺諒、中嶋武広、渡海菜央